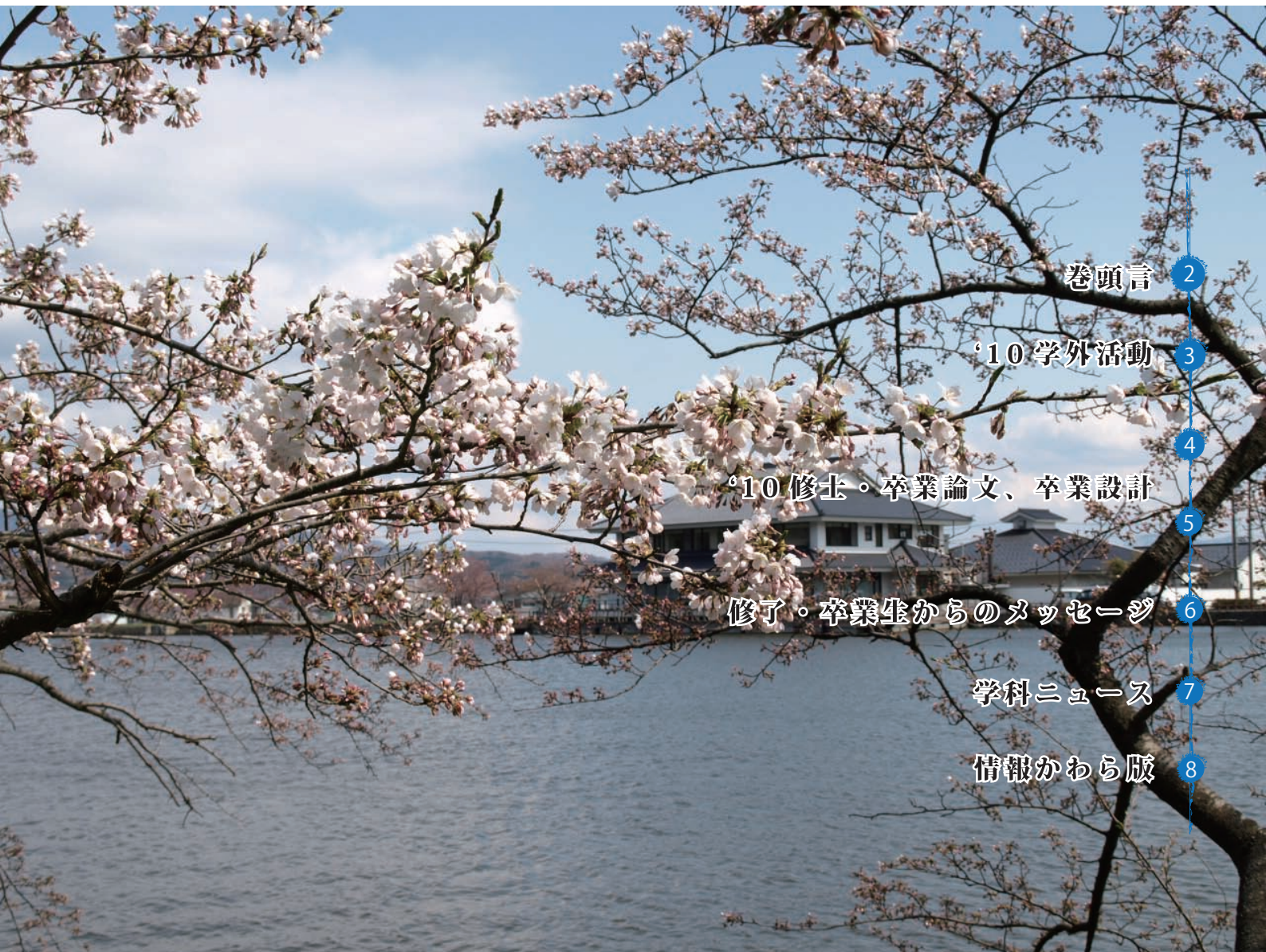


UAEL

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.



都市アメニティの輪を広げる ニュースレター第5号



巻頭言

2

‘10 学外活動

3

‘10 修士・卒業論文、卒業設計

4

5

修士・卒業生からのメッセージ

6

学科ニュース

7

情報かわら版

8

本荘さくらまつり（鶴舞温泉の桜が見ごろでした） 撮影：小川 宏樹

巻頭言

無謬主義（むびゅうしゅぎ）

まず、東日本大震災により犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げたい。そろそろ来るだろうと分かっていたものの、いざ起きてみると、改めて自然の猛威に驚く。そして、もう一つ。こちらも、ある意味、起こるべくして起こったと言える福島第一原子力発電所の大事故。この大事故は、私たち日本人の無謬主義が作り出した人災と言える。この事実を前に、高等教育を担う一人として改めて考えさせられることがある。それは、私たちが無謬主義を克服しない限り、原子力産業に限らず、あらゆる分野で同じ失敗が繰り返されていくと言うことだ。

無謬とは理論や判断に間違いが無いことを意味し、無謬主義とは理論や判断に間違いが無いことが全てにおいて前提となり、間違いが起きたときの想定や議論自体がタブーとされる主義だ。学校でも職場でも私達日本人は間違いをしてはいけないという前提で物事をすすめる。ミスが許すことができず、たとえ多くの成功をおさめても、一つの失敗で評価を失うため、誰もが萎縮してしまうのだ。

原子力発電がコスト的に見合うには、大きく2つの条件が成り立っている必要がある。一つ目は「絶対に事故を起こさないこと」であり、二つ目は「核廃棄物を安全に管理できること」である。原子炉が稼働していなかった福島第一原発四号機の事故からも分かるように、核廃棄物を管理する施設の安全性を確保することも、広い意味では一つ目の条件に含めて良い。つまり、原子力発電が成り立つには無謬主義でなくてはならないのである。

私たちが無謬主義から脱するには、教育の場から変えていかなくてはならない。そのため、私が日頃から学生と接する時は、ミスを叱るのではなく、ウソやゴマカシを許さない姿勢を心がけてきた。これまで、学生達に明言してこなかったが、これからは更に徹底していく。正直者が馬鹿を見る社会は良い社会ではない。そのような社会が続く限り、一人一人はやり過ごせても、必ずどこかで再び、今回の原発事故のような、大きな深手を負うであろう。

今、日本以外の先進国は、原子力産業から徐々に撤退し、再生可能エネルギーによる発電へシフトしている。世界全体の総発電量は、既に再生可能エネルギーによる量が、原子力発電による量よりも多くなっている。我が国は、原子力発電を推進した失敗を認めたくない、無謬主義的に失敗しないことになっているため、世界の進化から取り残されているのだ。



浅野 耕一（あさの こういち）

【建築・都市アメニティグループ 都市アメニティ工学分野】

生きる希望と街の再生がシンクロするよう

先日、被災した釜石市在住の友人を見舞うべく、釜石までクルマを走らせました。「くしの歯作成」で啓開したR107号は、自衛隊のモスグリーンの車両や荷物満載の民間トラック・バンが列をなして走っており、まさに支援物資の大動脈と化していました。物流を支える根幹的道路は国家組織が一元的な組織力とパワーで切り開き、活動拠点に運び込まれた物資は、ボランティアの手により被災者にスムーズにゆきわたる。その自然と生まれた役割分担、とりわけ毛細血管のような、あるいは潤滑油のような役割を果たすボランティアの姿は感動的でもありました。

想いおこせば、1995年の阪神・淡路大震災をメディアで知った市民は、これまでにない速さと自律的ネットワーク化で応急・復旧を支えました。2年後におこった三国沖タンカー座礁の際には、多くの市民ボランティアが駆けつけて海岸清掃が展開されました。そして、こうした動きを背景に、1998年にNPO法が制定されるに至りました。今回の津波被災への対応は、さらに成熟した市民社会の形成が顕在化したと見てよいでしょう。地縁・血縁ではない、企業社会とも異なる市民社会的な活動が展開され、社会全体の人間関係の豊かさによる効用、いわばソーシャル・キャピタルの存在を実感しているところです。

その一方で、被災地を見るに及んで、そんな楽観的な気持ちは彼方へと遠ざかります。人口減少率がマイナス6～8%/5カ年、高齢化率にして30%を上回る三陸の諸都市にどのような復興都市像を描くのか、という重い課題が立ちはだかっています。市街地の高台移転、人工地盤化、漁港の集約再編といったアイデアは出てきますが、資金調達、産業の再生、権利調整、生活と文化の継承といった現実と如何に結びつけるのかのスタンスなしには、アイデアは現実化しません。

今後、百花繚乱の復興ビジョンの議論が収斂し、具体的な都市復興計画の策定、そしてそれを実現するための復興まちづくりがスタートします。とりわけ地区レベルの具体的な事業には、阪神・淡路の教訓を活かすべく、市民参加を伴ったものになるでしょう。それも、三陸の地形と東北人の気質を反映した、これまでにない取組みとなることが予感されます。

街の再生が、単なるデザインや願望ではなく、個々人の生活確保、生業との調整、権利調整を経た上での現実的創造となるよう、そして被災した人々の生きる希望にシンクロするよう、都市・建築に係わる技術者や研究者は専門技術を「謙虚」に活かす時だと思えます。



山口 邦雄（やまぐち くにお）

【建築・都市アメニティグループ 都市アメニティ工学分野】

都市アメニティ研究室卒業修了展報告

2011年2月19日から20日の2日間、都市アメニティ研究室の第3回目の卒業・修了展が秋田市民交流プラザ「アルヴェ」のきらめき広場で行われました。都市アメニティ研究室の日頃の研究成果について市民、行政、研究者の皆様にご公表するとともに、それに基づいて今後の都市づくりについて広く議論する場として開催しました。展示内容は、卒業設計2点、卒業論文ポスター5点、修士論文ポスター1点の学部生・修士生の研究・設計や研究室の合宿及び社会活動、教員研究・活動などです。今年度は計画系研究室から荻谷教授の指導した羽後本荘駅前を敷地対象としたCAD設計Ⅱの課題作品9点と、秋田駅前を敷地対象とした卒業設計ポスター2点が展示されました。

卒業・修了展開催にあたっての準備は、当日の会場設営でも決められていた配置を基に、周囲の状況を見ながらより多くの方々が興味を持ち、見ていって下さるような配置に変更していくなど、積極的に学生が動いていました。

卒業・修了展には高校生や他大学の学生、一般の方や外国人の方など多くの方

が来て下さいました。通りすがりに興味を持って足を止めていただいた方が多く、特に卒業設計の模型には多くの方が興味深く見入っていました。卒業・修了展は本研究室の研究内容を一般の方に知っていただく良い機会ですが、ご来場された方は研究内容がいまいちよくわからないという方が多いように感じます。やはりポスターや模型を見るだけではなく、実際に学生と話すことで研究内容をより知っていただける機会だと思います。外に向かって発信・行動していくことが本研究室の魅力でもあり、学生にとっても一般の方と話す機会というのは学生生活の中では少ないことなので、良い経験になりました。

まだ三度目の開催ということで今年度の反省点や気付いた点は来年度の卒業・修了展の完成系へと向けて活かし、より多くの方に本研究室の活動内容を知っていただきたいです。本ニュースレターをご覧の方も、お時間がございましたら来年度の卒業・修了展にもご来場いただければと思います。

【木村 洋子 学部4年】



白熱議論！ 都市アメニティサロン

これまで卒業・修了展にあわせてシンポジウムを開催してきましたが、今年は参加者相互で意見交換・情報交流を深めることができるサロンを企画しました。参加者は都市・建築に係わる研究者、民間技術者、国・県・市の職員、市民活動家、事業に取り組んでおられる住民の方々など合計19名。県大からは、荻谷先生（建築計画）と細淵先生（環境計画）にも参加して頂きました。

進行は、小川先生が「都市アメ研の活動紹介」と題して昨年の夏季集中研究の内容を、浅野先生と山口先生が「教員の活動・研究」と題して由利本荘市のGIS導入や本町通りの住民によるまちづくり活動を報告し、その後民間プランナーである河村

氏より「中国の都市開発事情」と題するスライド報告がありました。後半からは缶ビールを片手に、白熱した議論が展開され、予定時間を30分ほどオーバーしてしまいました。以下、河村氏からの寄稿です。



はじめに、去る3月11日の東日本大震災により、被災された皆様、ご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。私も都市計画やまちづくりを専門とする一員として、自分なりに協力できることを考えております。

さて、今回は私が中国で経験したことを簡単に述べさせていただきます。中国の経済発展はすさまじく、年10%弱の成長率を誇っています。中国の強さは、補助金頼みの日本に比べ、沿岸



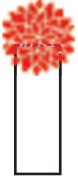
部の大都市では中央政府からの補助金がほとんど無く、高速道路や地下鉄等のインフラはPFI方式で建設され、熾烈な都市間競争の中で成長していることです。

各市が発展に乗り遅れまいと、ひたすらに開発を進めている状況です。ただ、そうした発展の影で貴重な歴史・文化資源が破壊されており、一極集中の都市政策の失敗を経験した我が国から見れば、数十年先に禍根を残すのではないかと危惧しています。そうしたことから、アジア諸国に日本の都市政策の経験を伝え、よりよい社会とすることが自分の夢でもあります。学生諸君には内向きになるより、外向き志向で様々な経験と貢献することを願っています。

都市アメサロンに出席することで、まちづくりに積極的な皆さんとお会いでき、楽しいひとときをすごすことができました。まちづくりや都市のあり方、生活のあり方を議論する場として都市アメサロンを定期的に開催していただければ、と願っています。

【河村守信（都市環境計画研究所 秋田事務所計画室長

morinobu@vmail.plala.or.jp）



菅原功子、昨年度の小田島さんの特別賞に続き

秋田建築卒業設計コンクール銅賞を受賞!!!



修士論文

小熊 耕平 「意匠設計者と設備設計者による協同設計の進行の円滑化に関する研究」

卒業論文

加藤 辰彦 「街なみ環境整備事業における住宅修景の促進要因に関する研究」
-東北地方 7 地区の調査より-

金子 佑 「歴史的市街地を有する地方都市の持続性に関する研究」
-交通施設と人口増減・住宅着工に着目して-

小玉 彩子 「災害対応を考慮した自治体平常業務における時空間GISの利用促進に関する研究」
-導入後 3 年間における利用状況の変化に対する一考察-

鈴木 結花 「意匠設計者と設備 / 構造設計者の協同設計に各種制約が与える影響に対する一考察」

篠原 美由希 「他の交通手段を選択可能な条件下での徒歩の選好に関する研究」

卒業設計

菅原 功子 「MAMArTO -橋の向こうの次世代型こども園-

渡邊 豊 「ゼンカイスクール」

修論・卒論・卒計紹介

ここで、修論・卒論・卒計を代表して小熊さん、金子さんの論文と菅原さんの卒業設計を紹介します。

MAMArTO -橋の向こうの次世代型こども園-

菅原 功子

Guide of "MAMArTO"

Concept
地域で支えるままとこどもにやさしいこども園
母親が子育てを楽しめこどもに様々な体験をさせる
ままとこどもが地域によって支えられ、一体的につながるイメージがコンセプトとなった

子育て講座
保育士によるこどもの健康管理法、ご飯の食べさせ方などを学ぶことができる。

子育て相談室
個別に子育てに関する悩みや不安を先生に相談できる。

子育て料理教室
乳幼児向けの料理を実践する活動で、実施日は利用者で試食会をしたり、作った料理を園児の昼食として出したりすることができる。

子育て支援室開放
未就園親子が自由に遊べる部屋で、他の利用者親子と交流・情報交換できる。

▲1階平面図(1/1200)

▲a-a'断面図(1/1200)

〈研究の意図と目的〉

我が国の人口は、総務省のまとめによると1968年の調査開始以来、2006年に初めて減少に転じた。今後は、都市の持続性の観点から既存の公共交通のストックを適切に活用していくことが望まれる。しかし、モータリゼーション等の進展により、公共交通の事業成立性の低い郊外への無秩序な市街化が進展している。特に、城下町等の歴史的市街地を有する地方都市では、歴史的市街地の道路の幅員が狭い等の脆弱な交通基盤により、無秩序な市街化にいつそうの拍車をかけている。今後も人口減少が進むことで、低密な市街地の発生が懸念されているが、市街地人口が安定し、住宅着工も一定あることが重要であると言える。

そこで、本研究では、歴史的市街地を有する地方都市における交通施設の利便性に関する条件(以下、交通条件)と「人口増減」、「住宅着工」の関係を明らかにし、地方都市の持続性について考察することを目的とする。

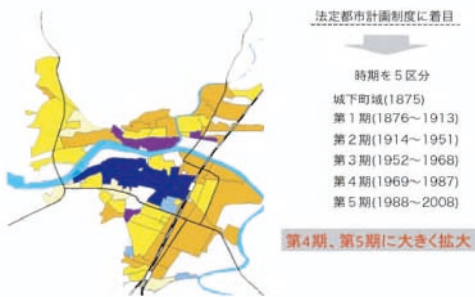


図1 各町丁の拡大時期

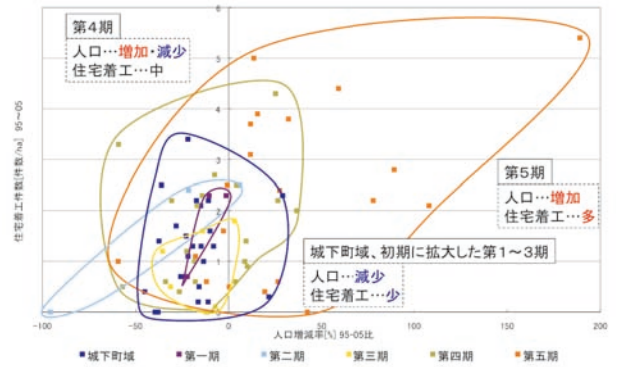


図2 秋田県旧本荘市の人口増減と住宅着工

〈まとめ〉

本研究により旧本荘市では、

- ①城下町域だけでなく早い時期に拡大した市街地においても成熟から衰退への過渡期を迎えたこと
 - ②城下町域では、公共交通の交通条件が良いことが持続性を担保していること
 - ③城下町域外では、幹線道路の交通条件が良く、かつ、ある程度駅に近いことが持続性を担保していること
- 以上の3点が明らかになった。

今後は、城下町域では公共交通を主とした、城下町域外では自動車交通を主とした交通施設の適切な役割分担が重要であると考えられる。それと同時に、人口減少下におけるさらなる郊外化を抑制する適切な土地利用コントロールが課題である。

〈研究の意図と目的〉

現代社会では建築に対するニーズの多様化と高度化に対応して、建築設計の専門化・分業化が進んでいる。特に近年は、省資源・省エネルギーで快適な生活空間の構築を目指すべく、環境に配慮した建築の普及が促進されている。以上の背景から、意匠設計者と設備設計者による「協同設計」が注目されている。しかし、両者では専門領域が異なるため、無条件で相乗効果を発揮するとは限らない。

本研究では、従来あまり検討されていなかった意匠設計者と設備設計者の意見交換に着目し、協同設計において技術情報を円滑に統合していく手法の一端を明らかにすることを目的とする。

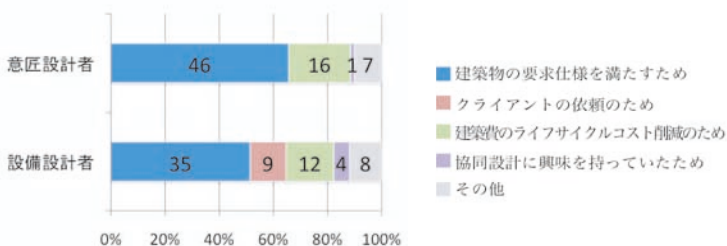


図1 協同設計の主旨についてのアンケート調査結果

表1 「意見交換方法」の類型と「やりとり特性」の関係

やりとり特性	情報伝達量	意匠 > 設備	意匠 = 設備	意匠 < 設備
		“牽引型”	“介入型”	“棲み分け型”
【目標値の提示】	○	○	△	
【自由度の提示】	○	○	△	
【相手領域の断片的な提案】	○	○	△	
【担当の割当て】	△	○	○	
【成果の収集】	△	○	○	

〈まとめ〉

前述の目的より、意匠設計者と設備設計者へアンケートを行った結果、以下の知見を得た。

- ・意匠設計者が設備設計者からアイデアを引き出すための情報提供が必ずしも行われていないことが課題と言える
 - ・要求仕様を明確化していく際、複数の分野を頻繁に行き来する過程があり、その中では、異分野複合用語の活用がみられた
 - ・意見交換の型を提案し、具体的な協同設計事例をもとに各型の特徴と各型の遂行に求められる能力を明らかにした
- 意匠設計者が自分に適した”型”を如何に判断していくのかという判断要素の検討、提示が課題である。

先輩から後輩へ・・・

一言もの申す！！

小熊 耕平

【株式会社 類設計室】

楽しい話題も伝わらなければ意味はない。同様に、研究成果は、伝わらなければ意味はない。

楽しい話題を相手に聞いてもらう時、話の展開をわかりやすく順序立てて、相手に理解させる。最も適切なタイミングで「オチ」を持っていき、笑わせる。研究もほぼ同じ、と

考えていいのでは。

論文は、相手が理解できて初めて価値が生まれるように思う。そのための表現を如何なる方法で用意するか。

研究には作図や整理方法等のスキルも不可欠です。先生方、先輩方から一生懸命学びましょう。皆さんの活躍を期待しています。

加藤 辰彦

【佐藤工業株式会社】

多くの人にとって、大学 4 年生は学生生活の本当の最後の 1 年になると思います。なので、悔いないようにやりたいことをやってください。

そして、楽しみながら、メリハリのつけた生活を行いましょう。

100%研究に打ち込むのも良いですし、研究 50%と遊び 50%でも良いですし、100%遊んでもいいです。好きにやっています。誰も強制はできません。ただ、最後は自分に返ってきます。強い心を持ってがんばってください！

金子 佑

【大和小田急建設株式会社】

正直、この一年間あっという間という感じでした。研究も大事ですが、次の年からはほとんどの人が社会人になります。24 時間の時間を自分で自由に設定できる分、時間の使い方を今まで以上に大切にしてください。充実した一年になるかは自分次第です。しかし遊び

過ぎは禁物です。やることはしっかりとやらなければいけません。みなさんの研究成果が都市アメホームページ、都市アメブログで紹介される日を心待ちにしています。

小玉 彩子

【本学大学院進学】

机の使い方について。机の上に物を置き過ぎないように注意していましたが、課題が重なった時や、全体ゼミの発表の前などには資料や校正中の書類で机の上が紙だらけになってしまいました。片付いていないと作業効率が落ちるので、卒論作成は、片付けながら進めることを意識する

と良いと思います。

機能的で自分らしさのある作業環境を創造してください。

篠原 美由希

【山口大学大学院理工学研究科進学】

自由は不自由です。つらい道に進むことで成長することはあります。また、自分のやりたい研究ができることはとても幸せなことだとも思います。しかし、あまりに大きな課題に押しつぶされてしまいます。

これから研究を始める後輩の皆さん、今までやってきたことのないものに戸惑い、苛立ち、挫折することもあるかもしれませんが、しかし、登り切った後だからこそ見えるものもあると思います。頑張ってください。

菅原 功子

【山形デザイン専門学校進学】

朝型の設計活動を心がけましょう。設計の会社やデザイン事務所でも、徹夜禁止で退社時間に社員を強制退社させるところもあります。夜にもちゃもちゃ考えていたことが、帰宅して寝て朝学校来たら頭が整理されてて手が動いたなんてことはざらにあります。

“直接的”に卒業設計のことを考えない時間も重要です。一見違うアクションにも作品ヒントがあるので。やりたいこととプライベートは紙一重？かもしれませんが、公私混同しない大人みなさんを期待しています。

鈴木 結花

【P.V. ソーラーハウス協会】

大学 4 年の 1 年間は、本当にかげがえのないものです。研究に打ち込みつつ、思い出をたくさん作り、充実した 1 年を過ごしてください。

研究は、打ち込んで行うことで、結果が出て、頑張っただけ深いものになると思います。そして時には面白いときさえも思えると思います。

大学生活のかげがえのない思い出は、将来行き詰まった際に、頑張る糧になると思います。

学生生活というかけがえのない時間を、仲間を大切に、皆さん一人一人がそれぞれの形で、悔いの残らないものにしてください。そして、今の 4 年生が遊びに来た際は、暖かく迎えてください。

渡辺 豊

【パナホーム株式会社】

秋田にいるのは今年で最後という人も多いはず。悔いのないよう秋田を満喫しましょう。花火、紅葉、山登り、牧場、海・・・楽しいことはたくさんあります。積極的な行動はきっと研究にも生きてくることでしょ。

たくさん相談しましょう。同期の友人、特に同じゼミ生は悩みを共有しあえる貴重な存在です。励ましあい、協力しあいながらがんばってください。

人生で一番つらく、楽しい一年にすることを目標に自分と戦い抜いてください。後悔しないように、色々とし尽くしてください。

崎山先生が准教授に！！

建築・都市アメニティグループの崎山先生が4月より准教授に就任されました。これを記念して、卒業生へのメッセージとこれからの抱負を語っていただきました。

この度の震災に際し、卒業生の皆様、また皆様のご家族やご友人、および日頃からご支援を賜っている多くの皆様に対してご無事をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、私事、4月より准教授を拝命し、新たな気持ちで新年度のスタートを切ることになりましたので、この場をお借りしてご報告いたします。研究室内外の多くの方が本誌をお読みになるとのことですので改めてご挨拶申し上げますと、専門は建築空間史・都市空間史・建築意匠論・文化財保護等で、とりわけ地方の建築空間や、思想および技術の伝搬過程等について研究しております。今後とも本学の教育・研究、或いは研究成果の地域への還元の見地から努力していきたいと考えておりますので、ご指導の程お願い申し上げます。

そして卒業生の皆様、ご無沙汰しています。早いもので、私が秋田県立大に赴任してから7年半の月日が流れました。その間、都市アメニティ研究室の学生との接点と言えば主として設計系の演習課題等でしたが、成果はさておき、とにかく「今できることを一生懸命やる」気概を持ち、毎日30分しか寝なくてよいと言われるキリンを目標に、自分なりに走り、そして皆さんと接するように心掛けてきました。建築計画研究室の卒業生に言わせれば暴走と言うのでし

うか。教員と呼べるほどの見識を持った人間ではないので、自ら妥協しない姿勢を見せることくらいしか思い至らず、結果的に、建築計画研究室の学生とは数え切れないほど朝日を一緒に拝んできました。恨み節はよく届いていたことでしょうか。もちろんそれらが適切であったかは私にも解りません。ただ、月並みですが、私は「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。そして、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間を育てること、それが教育の目的といえよう」というアインシュタインの言葉が好きです。これからも模索が続きそうですが、皆さんの力を借りながら、微力ながら本学のため、また困難に直面している地域社会のために力を尽くしていきたいと考えています。卒業生の活躍は私の元気の源です。困難に負けず頑張ってください。そして今後ともどうぞ宜しくお願いします。



崎山 俊雄

東日本大震災に関する情報アーカイブス

これまでの自然災害の教訓を活かし、情報共有と復旧・復興支援を目的として、震災の発生直後より公的機関、大学・学術団体、民間企業等が地震や津波等に関する様々なデータを公開しております。ここでは、Web上で公開されている復興支援や防災研究等に活用できる、各種統計資料や地図・航空写真等を紹介します。(表作成：小川 宏樹)

タイトル・製作者	内容	URL
平成23年東北地方太平洋沖地震による被災地の空中写真(国土地理院)	被災地の空中写真を3/13より国土地理院ホームページで公開。GIS上で利用可能なオルソ画像のダウンロードも可能。	http://saigai.gsi.go.jp/h23taiheiyo-hr/index.html
浸水範囲概況図(国土地理院)	地震後に撮影した空中写真及び観測された衛星画像を使用して、津波により浸水した範囲を判読	http://www.gsi.go.jp/kikaku/kikaku60003.html
推定浸水域にかかる基本単位区による人口・世帯数(総務省統計局)	上記浸水範囲概況図による浸水想定域の人口・世帯数の統計データを公開(平成22年国勢調査速報集計結果による)	http://www.stat.go.jp/info/shinsai/index.htm
東日本大震災関連のGISデータ(東京大学生産技術研究所)	国土地理院の航空写真より作成した津波到達(浸水域)判読ライン、その他統計GISデータの配布	http://stlab.iis.u-tokyo.ac.jp/eq_data/
東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ(日本地理学会)	空中写真を実体視判読し、津波の遡上範囲を縮尺1/25,000の地形図に記し、家屋流出の甚大な被害を受けた範囲を図示	http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/20110311/
被災地の人口分布(日本リモートセンシング協会)	会員が作成した被災地の人口分布、海岸線からの距離毎の人口分布、孤立集落の市町村分布等を公開	http://www.jars1974.net/EQ2011/population.html
被災地三次元フォト・オーバーレイ(首都大学東京 渡邊英徳研究室)	ニューヨーク・タイムズ他に掲載された40枚以上の被災地写真をGoogle Earth上で閲覧可能なデータベースとして公開	http://nagasaki.mapping.jp/p/japan-earthquake.html

*当研究室では、上記GISデータの活用方法や、防災・都市計画に関する業務・研究の相談を受け付けております。



第5回の報告者は
6期生 原田知恵さん

こんにちは。都市アメニティ工学講座6期生の原田知恵です。諸先輩方に続き、この様な形でメッセージを配信出来る機会を頂き、大変嬉しく思います。

私は現在、仙台市の家具工場にて積算業務に就いております。家具を製造する前段階として、契約に結びつく重要な仕事ということで、身の引き締まる思いで日々仕事をしております。直接製造に関わっている訳ではありませんが、自分の見積った家具が製造・出荷され、学校や病院・老人ホームなどの施設で多くの方が利用していると考え、とてもやりがいを感じます。


大学時代は、由利本荘市と連携して災害対応可能な時空間 GIS について研究に取り組んでいました。様々な災害を想定したシナリオを作り市役所の方々と図上訓練を行ったり、企業と共同で作業を行ったりと、学内に留まらない研究が出来て非常に勉強になりました。

私が社会に出て実感したのは、大学時代に培った経験は、今になって様々な場面で生きてくるといことです。研究や木匠塾、自主研究等の活動で学外との関係を持つ機会が多くあったため、様々な現場を肌で感じる事が出来てとても貴重な経験だったと思います。アドバイスとして伝えたいのは、どんどん外に出て欲しいということです。よく、経験が糧になると言いますが、経験は仕事に生かせるだけでなく、自信にもつながるので、失敗を恐れず何事にもチャレンジしてみてください。学生だから実現できた、無茶なことも沢山ありました。学生という立場をフルに活用して下さい。

最後に、私事ではありますが、この度の震災でアパート・会社共に津波被害を受けました。全てが想定外で、誰もが経験したことがないという状況で、現地は大混乱でした。そんな中、安否を気遣ってくれたのは先生はじめ、大学の友人・先輩達でした。とても心強かったです。大学でかけがえのない友人に出会えたことを幸せに思いました。皆さんも、今いる仲間達がきっと生涯の友になると思います。

イベント計画表

'11.4 - '11.9

- 4月 ・ 入学式 
- 5月 ・ 本紙発行
・ 計画学講座合同ゼミ
- 6月 ・ 24~25日 建築学会東北支部 (秋田)
(今年度は秋田開催! 5編の発表を予定)
- 7月 ・ 16日 夏のオープンキャンパス
- 8月 ・ 9日 建築学研修発表会
・ 三年生研究室配属
・ 23~25日 建築学会全国大会 (東京)
(5編の研究発表を予定)
- 9月 ・ 夏合宿 (夏期集中研究)

編集後記

私が大学に入学したのは、ちょうど阪神・淡路大震災の年('95年)でした。この時は構造、材料や建築計画などの様々な授業で、被害の状況や今後の対応策といった新しい知識や技術を教わりました。さらに、あの未曾有の都市型災害を教訓に、建築に携わる技術者として心構えも学んだことを記憶しています。

あれから十数年が経ち、今回の東日本大震災では、私が学生達に伝えていく立場となりました。地震だけでなく津波や原子力発電所の事故など、これまで建築や都市計画の分野ではあまり扱われなかった問題も沢山ありますが、これからの東北の復興を担う若い建築技術者を育てていければと、いつもの4月以上に身が引き締まる思いです。[小川 宏樹]

2011.04.30 NL 編集部
小笠原 聡美 佐藤 直樹 小川 宏樹

OB・OGの皆様へ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントにご協力お願いします。連絡は下記(小川)まで。山口先生が昨年度に引き続き、就職委員となりました。OB・OGの皆さん、就職ガイダンスで「先輩に聞く就職活動と企業状況」という企画がありますので、来校可能な方は是非ご協力下さい。



UAEL 編集部
〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4
秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
電話：0184-27-2061 mail：wogawa@akita-pu.ac.jp
担当 小川 宏樹

ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!
<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>
(検索サイトから“都市アメニティ工学研究室”で検索)